

高志中学校オープンスクールで頂いたご提案やご意見へのお答え (令和元年9月16日開催)

1 適性検査

- Q 今回の入学者選抜から、作文に替え面接を行うこととした理由は何か。また、面接ではどのような点を評価するのか。
- A 高志中学校では、入学から高校卒業までの6年間を見通して、「自分の意見を論理的に伝える力を伸ばす教育」、「様々な人々との活発なコミュニケーションを通して、課題解決に必要な資質・能力を育てる教育」を進めています。これらの教育活動は、新しい学習指導要領においても「主体的・対話的で深い学び」として重視されています。
- 特に中学校の3年間は、高志学の活動だけでなく、国語や英語などあらゆる教科において、探究活動を通じて自分の考えを明らかにし、言葉によってその考えを表現し、他者から賛否双方の意見を聞き、自らの考えを修正・発展させる活動に力を入れています。
- こうした活動への適性について判断するため、新たに面接を実施し、コミュニケーション能力や学びに向かう力を評価することとしました。
- Q 面接終了時間が受験生によって大きな時間差が生じることとなる。送迎時刻の目安がつくように、予め終了時間を知らせてほしい。
- A 受験票に面接終了予定時刻を記載しますので、参考にしてください。
受験票は、適性検査の注意事項等の書類と合わせて、1月6日までに返送します。

2 教育方針、学校運営

- Q 中学校や高校では、クラス替えをどのように行っているのか。
- A 中学校では、これまでのところ毎年、進級のタイミングでクラス替えを行っています。クラス編成にあたっては、男女数や学力のほかクラス運営の観点など、全体のバランスに配慮しています。
- 高校については、高志中学校から入学してくる生徒（内進生）が3学級90名、高校入試を経て入学してくる生徒（高入生）が4学級160名います。現在のところ、1年生と2年生は、内進生90名と高入生160名は、別々の生活クラスを作っています。科目（芸術や体育など）によっては、1年生の段階から一緒に授業を受ける場合があります。
- 2年生になると、内進生・高入生ともに文系・理系に分かれます。また、将来、難関大学進学を志す発展クラスと、丁寧に基礎を固めながら国公立大学等への進学を志す標準クラスに分かれます。選択の状況によっては、文理混合クラスを作る場合もあります。その場合でも、文系生徒と理系生徒は別々の講座に分かれて授業を受けます。
- 3年生になりますと、文・理別にさらに3種類の類型に分かれます。志望大学への進学に必要な学習が授業の中でも行えるように、細かく講座を編成します。
- クラス編成、講座編成には様々な要素が関係してきますが、毎年、目の前の生徒の進路実現のために、一番良いクラス編成を考えて行っています。
- Q 高志中学校の授業料は他の公立中学校と異なるのはなぜか。授業数が違うためか。
- A 授業料も教科書も、他の公立中学校と同様に無償です。ただし、教科書以外の副教材や高校の内容を学習する際に使用する教科書等は費用が生じます。
- また、令和元年度の中学校1年生の場合、海外研修積立金として月9,000円、PTA会費、学年会費、生徒会費などとして月平均5,000円、給食費として月平均6,000円程度が必要です。さらに、入学時には、制服・体操服や教材などで約10万円が必要です。

なお、本校が他校と比べて異なる点は、主に次の3つです。

- ・3年次に実施する海外研修（シンガポール）の積立金（3年間で約18万円）
- ・給食費（地場産食材を多く使用しています。約7万円/年で他校と比べ1割程度高いです）
- ・通学費（交通機関を利用される場合）

Q 国公立中→藤島高校と、中高一貫で高志中→高志高と、どちらがよいのか悩んでいます。

A 併設型中高一貫校のメリットとして、次の点があげられます。

- ①最大年齢差5歳の異年齢集団の中で人間関係を構築する経験を積むことができる。
- ②将来の夢や目標など志を持って各地から集まってくる生徒の中で切磋琢磨できる。
- ③6年間を共に過ごすことにより深い人間関係を構築できるとともに、高校から入学する生徒とも互いに刺激し、高め合うことができる。
- ④高校入試のための準備期間を必要としないため、6年間を通した効果的な学習や部活動ができる。
- ⑤6年間を見通した継続的な人間教育、キャリア教育等を受ける機会がある。（本校では「高志学」等）

一方、デメリットとして考えられるのは次の点です。

- ①高校進学時に、受験という人生の大きな節目、試練を乗り越える経験がない。このため、中学3年次に“中だるみ”の懸念がある。
- ②住み慣れた地域、幼馴染の友人との関係が薄くなりがち。
- ③6年間で学力差が広がる可能性があり、下位の生徒が高校での学習で苦勞する場合がある。
- ④学校のことをよく調べず、あいまいな志望のまま入学してしまい、入学後にミスマッチが起こる場合がある。

全国的に都市圏においても地方においても、中高一貫教育校が次々と開設されており、進学者は年々増え続けています。これまで重視されてきた「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」が大学入試で求められるようになり、6年間かけてこうした力を育む中高一貫教育のカリキュラムに関心が高まっていることが背景にあると思われます。

本校においては、前述の併設型中高一貫校のメリットやSSH・SGH等で蓄積したノウハウを活かしながら、大学入試を念頭に置いた6年間を見通したカリキュラムを編成するとともに、以下の教育目標のもと、特長ある教育を進めています。

- 1 地域社会、国際社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性
- 2 ふるさと福井への深い知識と大きな誇り
- 3 世界に通用する語学力と国際感覚

開設5年目であり、大学進学実績も卒業生の社会での活躍もまだこれからですが、今後、大きな成果が表れることを期待しているところです。

こうした点を参考にし、お子様とともに進路についてご検討ください。

3 学校生活

Q 高志学では、嶺南宿泊研修や職場体験研修、東京研修、シンガポール研修など、各学年において様々な校外研修を行っているが、研修以外には何を行っているのか。

A 高志学は、3つのプログラム、ふるさと学習プログラム、キャリア教育プログラム、そして課題研究プログラムから構成されています。

ふるさと学習プログラムでは、歴史や自然など福井の魅力、地域資源について調べる内容になっています。一人1台のタブレット端末や図書室を使ったりして、調べ方やまとめ方について学んでいます。

キャリア教育プログラムでは、福井の産業や働くことについて学びます。企業経営者に来てもらい、産業や経営について講義いただいたり、職場体験研修前には研修先企業について調べたり、研修後には振り返りのレポートをまとめたりします。

課題研究プログラムでは、福井県の将来に関する提言をまとめます。3年生の前期に論文の書き方に

ついて学び、後期は各自が決めた論文テーマについて調査活動を行い執筆します。教室や図書館で調べるだけでなく、自分で会社に連絡して訪問依頼を行い、夏休みなどに出かけて行きインタビューを行ったりします。

Q 理科に力を入れているとのことだが、具体的にどのような点を工夫しているのか。

A 理科に特化して力を入れている訳ではなく、他教科においても、また、心と体の成長を促すための様々な活動にも積極的に取り組んでいます。

理科分野について、特徴的な活動を5つ紹介します。

①スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH)

高志高校は文部科学省から、国際的に活躍する理数系人材の育成するプロジェクト、スーパー・サイエンス・ハイスクールの指定を受けており、理科の実験室には、さまざまな機器・設備が整っています。これらを普通の授業で使用して、他の中学校ではできないような実験を行っています。

また、第一線で活躍中の研究者による講演会を毎年開催しており、中学生も聴講しています。

②ステップアップ講座

7月下旬から8月上旬の夏休み期間中に、5教科の特別講座を編成して、生徒が希望する講座を選択して受講しています。本校の教員が、中学校の各学年の学習内容を超え、教科書には出てこないような「知」や、高校や大学で習うハイレベルなことを題材にして、学ぶことの楽しさを伝えています。

この一環として、県外から研究者や大学教授を招いて特別講座を開いています。例えば昨年度は、国立天文台の研究者から星の誕生について、また今年度はNHK高校講座（物理基礎）の講師を務めている先生から元素の起源についてお話いただきました。

③土曜特別授業

県外の中高一貫教育校で指導実績のある先生を特別講師として招き、土曜日を活用して、各学年4回程程度の特別授業を行っています。このうち理科分野では、開成中学・高校や筑波大学附属駒場中学・高校、東京学芸大学附属高校などから講師を招いて、地学（天文）や物理（音の波長）、化学（エネルギー）について、実験などを交えながらお話いただいています。

④サイエンス関係のコンクールやセミナーなど

理数グランプリなど行政主催のコンクールだけでなく、団体や民間などによる県内外での大会やセミナー等の募集情報を生徒に提供し、参加を呼び掛けています。また、チャレンジを希望する生徒を後押しするため、教員が放課後などにアドバイスを行ったりしています。

高校生の中には、自分たちで面白そうな企画を探し出してきて、個人やグループで応募し、見事代表に選ばれて海外研修等を実現する頼もしい生徒も次々に出てきています。

Q かなりの学習量が必要と感じたが、万一、付いていけなくなった時にフォローしてもらえるのか。

A 中学校での学習は小学校と比較し、質・量ともに難しく多くなりますが、基本的な生活習慣や学習習慣が身に付いていれば、特に心配は不要です。予習し、授業に集中して臨み、復習や宿題を毎日行えば十分についていけます。

学習面のサポートが必要な生徒に対しては、数学と英語について、毎月数回、放課後に補習を実施しています。また、定期試験（年6回）の前や、長期休業（夏、冬）期間中には、国語・数学・英語について理解が不十分なところを復習する機会も設けています。

Q 夏休み中、生徒は補習授業や部活動など、どのように過ごしているのか。

A 例年、7月下旬から8月下旬までを夏季休業としていますが、生徒たちは8月中旬の学校閉庁日を除き、さまざまな活動で登校しています。主な活動は次のとおりです。

7月下旬から8月上旬にかけて、希望制のステップアップ講座、指名制のエンカレッジ講座を実施しています。前者は、中学校の枠を超えたハイレベルな内容で、希望する講座を生徒が選択して受講しています。後者は学校が指名した生徒が受講するもので、既習事項のフォローを目的とする補習です。

8月下旬からは学校祭準備が始まります。高志学やミュージカル、作り物など部門ごとに分かれて準

備を進めています。

部活動は平日1日と、土日の一方を休養日としています。

Q 学習に対し不利な障害を持っている場合、学校はどのような対応を行ってくれるのか。

A 発達障害など特別な配慮が必要な生徒については、中学校に入学する際に、小学校での支援の状況が記録されている「個別支援シート」を小学校から引き継ぐことになっています。

また、入学前に保護者と面談を行い、小学校や家庭の様子について話を伺い、入学後の指導の参考にしています。

さらに、入学後に学校生活で困り感が生じた際には、スクールカウンセラーとの面談を設けたり、特別支援コーディネーターとして配置している教員が中心となって、学年主任や担任、スクールカウンセラー、養護教諭などによるケース会議を行い、対応策について検討、実施しています。

Q 中学生の県内地区別の割合はどうか。

A 福井市内からの通学者が約6割を占めています。

このほか、坂井・あわら市が14%、鯖江・越前市が12%、敦賀市が5%、大野・勝山市が3%などとなっています。

Q 自転車通学は可能か。認められる要件は何か。

A 自宅から本校までの直線距離が概ね3km以内、通学時間が約20分以内であることと、ヘルメットとカッパを準備することを許可条件としています。

カッパは背中に反射テープがついているものであればメーカーや取扱業者は問いません。ヘルメットは学校指定のものを購入いただきます。

Q 携帯電話やスマートフォンの持ち込みは許可しているのか。

A 原則禁止ですが、通学等において家族との連絡などでやむを得ない生徒は、「携帯電話・スマートフォン持ち込み」許可願いを提出いただき、学校への持ち込みを特別に認めています。(約5割の生徒を許可)

持ち込みを認めた生徒については、朝の会で担任が預かり、帰りの会で返却しています。校内での使用は、放課後に生徒玄関でのみ認めています。

Q 給食においてアレルギー食の対応は可能か。

A 予め全校生徒にアレルギーの調査を行い、個々の生徒に対応した給食を提供しています。アレルギー対応食は専用の調理室で調製しています。

4 課外活動

Q 部活動の取組について詳しく知りたい。

A 現在、運動部が9部、文化部が5部の合わせて14部が活動しています。

運動部 男子バスケ、卓球、バドミントン、弓道、剣道、硬式テニス、陸上、軟式野球、サッカー
文化部 吹奏楽、弦楽、サイエンス、囲碁将棋、書道

このうち、サッカーと書道は今年度から新規募集を停止しており、2～3年生が活動しています。

活動日は、原則として、平日は週1日の部活動休養日を除く4日間とし、休日は土日のいずれか一日のみとしています。

活動時間は、6限授業日は15時30分頃から、7限授業日は16時30分頃から活動を始め、17時45分に終了し、18時下校です。このため、限られた時間の中での集中した活動となっています。また、高校生は7限終了後に部活動を始めるため、決して十分なスペースが確保されているとは言えま

せん。中学生も高校生も時間と場所の制約のある中で、互いに譲り合いながら、また時には高校生に胸を借り、アドバイスをもらいながら、質の高い練習を重ねています。

なお、今後、教員数の概ね1/2にあたる10部程度まで削減する方針ですので、入学時点もしくは入学後に部の構成が変わる可能性があることをお含みおきください。

Q 部活動は全員加入か。また、校外でのスポーツ活動は認められているのか。

A 部活動は、原則全員加入です。

いずれかの部活動に入部した上で、校外において、水泳やピアノなどスポーツや文化活動に参加している生徒もいます。例えば、水泳や柔道など本校に部がない競技でも、中学校体育連盟等が主催する大会に出場を希望する場合には、学校活動の一環として参加を認めることがあります。

競技団体により選手登録の要件が異なることがあるようですので、校外での独自の活動を希望される場合には、個別にご相談ください。

Q 部活動以外に、どのような課外活動を行っているのか。

A さらに高みを目指して頑張る生徒を応援したり、学習や生活面でサポートの必要な生徒へのフォローなど、放課後を有効に活用しています。

英語ディベート大会や理数グランプリ、駅伝大会など、授業や部活動以外の活動にもチャレンジしたい生徒に対しては、放課後や休日に集まって練習を行ったり、個別にアドバイスをしたりするなど、積極的に応援しています。

また、学習面のサポートが必要な生徒に対しては、放課後に数学や英語の補習などを実施しています。

5 高校進学、高志高校の状況

Q 内進生と高入生のカリキュラムには、どのような違いがあるのか。

A 高志高校は、県内の高校として唯一、「進学型単位制教育課程」を導入しています。これは、自分の興味・関心、将来の大学進学に応じて、学習する教科・科目を個々の生徒が選択するというカリキュラムです。1年次は（選択の幅は狭く）共通する科目を学習することが多いですが、学年が上がるに連れて、文系か理系か、選択科目は何を選択するかなど、選択の要素が増えていきます。

内進生は、高志中学校において、数学と理科の一部の科目で高校の内容を先取りして学習しています。また、英語では、先取りはしていませんが、授業時数が多いこと、「話す」・「書く」のアウトプットを重視した授業を実施しています。

その関係で、高校のカリキュラムは、大きく分けると、内進文系・内進理系、高入文系・高入理系の4通りあります。内進生と高入生の違いは、数学や理科、英語の中の小科目を学習する学年や、教科書の学習を終えた後、大学入試に向けた演習科目のどの科目をどの程度選択して学習するか、などに現れてきます。

詳しい内容は、高志高校ホームページの「高志高等学校に入学を希望する皆様へ」のコーナーに、高校の「学校案内」が掲載されています。その中に、カリキュラムについての説明が載っておりますので、ご覧ください。

Q 内進生は、中学生の時から高校の教科書を学習しているが、高校で早い時期に教科書を終えた後、どのように時間を使うのか。同じ内容をもう少し深くやるのか。それとも別の事を学習する機会があるのか。

A 数学や理科などの教科書において、内進生は高入生よりも早く教科書が終わります。その後、各自の興味・関心に応じて新しい科目を学んだり、3年次に志望大学に応じた科目を選択して、入試のための演習に十分に時間をかけたりします。

選択によっては、高入生のカリキュラムに配置されていない選択科目を学習することも可能です。現在でも、文系を選んだ内進生（2年生）の中に、「数学Ⅱ」を終えた後、文系では受験科目にない「数学Ⅲ」を学んでいる生徒がいますし、英語4技能民間試験対策のため「英語外部検定チャレンジ」という学校設定科目（高志高校独自の科目）を学んでいる生徒もいます。

進学対策という点について言うと、これまでは放課後や夏休み・冬休みの長期休業中、大学入試センター試験後の個別試験の時期などに、志望大学別の特別講座や小論文指導等を行ってきましたが、「進学型単位制教育課程」の導入により、これらのことが通常の授業の中でも行われるように変わります。

Q 内進生（1期生、2期生）の県模試での具体的な成績を教えてください。

A 県模試の成績は公表していません。学習成績や部活動の成果、その他の活動等において、内進生と高入生を分けて考えることは行っていません。内進生と高入生が交流し、切磋琢磨する機会を積極的に設けるようにしています。

高校卒業後に希望する進路について、毎年、調査を行っています。1期生が高校2年生まで進級していますが、以前に比べて1、2年ともに難関大学を志す生徒が増えました。また、それに見合った実力を県模試で発揮している生徒も多いと感じています。

Q 藤島高校との格差（進学実績の差）について、どのように考えているのか。中高一貫によって格差を埋めることができると考えているのか。

A 高校卒業段階における進学実績を見ると、現時点では、特に難関大学の実績において、藤島高校と差があるのが実情です。

一方で、高志中学校の開校、内進生の高志高校への入学以来、高校入試を経て入学する高入生を含めて、難関大学を志す生徒が増え、志望にふさわしい成績を残している生徒が増えてきていることも事実です。

全国的には、公立の普通科進学校が中高一貫校化したことで、進学実績を伸ばしたという事例が多数報告されています。

中学校の段階から大学入試を意識したカリキュラムで学習できることや、高校の先輩や先生方から刺激を受けることにより、早い段階から大学入試に向けてモチベーションを高めることができることなどが、その要因だと言われています。

高志高校には、これまで進学校として積み重ねてきたノウハウの蓄積があります。また、高志高校、高志中学校の先生方は、生徒諸君の進学希望の実現に向けて、日々、授業改善、入試問題分析等に取り組んでいます。

高志中学校、高志高校の生徒諸君が真摯に学習に取り組むことによって、全国の並みいる中高一貫校を凌駕する成果をあげてくれることを、大いに期待しているところです。

6 オープンスクールの企画、開催方法

Q 授業を見学する際に戸惑うことなく目的の場所に行くため、案内の人員等に配慮いただきたい。また、生徒自身による案内について検討してほしい。

A 授業実施場所が1～3号館の2～4階に分散していたため、分かりにくかったとのご意見を多数いただいております。案内に行き届かない点があり申し訳ございませんでした。

案内者の数や案内表示など迷うことなく見学いただける方法や、生徒による案内など、来年度の改善策として検討させていただきます。

Q 理科の実験内容は見ているだけでも理解できたが、国語・数学は授業テーマがつかみにくかった。何をテーマとした授業なのか、説明があると分かりやすい。

A 教室の入口に生徒の学年と教科を掲示しましたが、内容に関する説明がなく分かりにくかったとのご指摘、ありがとうございます。授業テーマ・内容の配布資料への掲載や教室入口への掲示など、改善させていただきます。

Q 参加者が多いので、開催日を複数設けて実施してはどうか。

A 例年を大きく上回る900名の方々にお越しいただいたことで、特に授業見学の際に、廊下が混みあって落ち着いてご覧いただくことができず申し訳ございませんでした。

開催日の増加や開催回数の増加などによりご案内人数を抑える方法や、見学時の動線の工夫など、スムーズかつしっかりと見学いただける方法を検討させていただきます。

Q 部活動の様子を見学できると、より学校生活を理解できると思う。

A 部活動の際に生徒たちが見せる、授業時とは異なる一面もご覧いただきたいと考えています。ただ、学校説明会で使用する第一体育館や第二体育館が部活動場所となっていることや、雨天時には野球、サッカー、陸上、テニスは校舎内でのトレーニングとなることなど、考慮すべき点がございます。

来年度の改善策として検討させていただきます。

Q 13時以前にビデオ上映や注意事項の説明を行うのなら、事前に詳しいタイムスケジュールを示しておくべき。5分前に到着したところ、既にビデオ上映も注意事項の説明も終わっていた。

A ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。オープンスクールの案内文書に記載するなど、事前にスケジュールをお知らせするよう改善させていただきます。

Q 4～5年生対象にもオープンスクールを開催し、早い時期から進路について考え、準備に入る契機としてはどうか。9月に6年生対象に開催しても、高志中志望者しか参加が見込めないのではないか。

A 対象学年の拡大や実施時期の前倒しなど、来年度のオープンスクールの実施方法について検討する際の参考にさせていただきます。